

なか まち さだ こ
仲 町 貞 子

本名：柴田オキツ

* 明治27年 3月22日大三東村（現在の島原市）生まれ

* 昭和41年 6月16日没 （72歳）

○ 略歴

明治40年 県立長崎高等女学校に入学、在学中三宅古城に和歌を学ぶ
(13歳)

昭和4年 「詩神」に「託児所風景」を発表し、新進女流詩人として注目される
(35歳)

昭和6年 「磁場」の創刊に参加し、宮本のりの筆名で小説「鎌」を発表
(37歳)

昭和7年 「麴麴」の創刊に参加し、筆名を仲町貞子に復し小説、随筆を発表
(38歳)

昭和11年 砂子書房より第1小説集「梅の花」が刊行される
(42歳)

昭和14年 砂子書房より随筆集「蓼の花」が刊行される
(43歳)

昭和15年 長男急逝(7歳)を機に文筆を断つ 「輝ク」5月号掲載の通信文が戦
(46歳) 前見ることのできる最後の文章となった

昭和41年 6月16日白血病にて逝去
(46歳) 10月に夫の井上良雄により「父と母のこと」（筆名：井上おきつ）
が刊行される

○ 代表作

「梅の花」(昭11)、「蓼の花」(昭12)